

I. 事業概要

1. 背景

平成22年度末現在、全国の外国人登録者数は213万4,151人を数える。愛知県の登録者数は、東京都、大阪府に次いで全国で3番目に多く、166カ国、20万4,836人となっている（平成22年12月31日現在、法務省発表数値）。

愛知県では、日本人と外国人が多様な価値観を認め合いながら、ともに学び、ともに働き、ともに安心して暮らせる多文化共生社会をめざし、施策を計画的かつ総合的に展開するため、平成20年3月に「あいち多文化共生推進プラン」を策定した。プランでは、「多文化共生社会の形成による豊かで活力ある地域づくり」を基本目標に掲げ、さらに以下の3つの行動目標を設定し、その後の施策を推進してきた（計画期間：平成24年度まで）。

<p>行動目標Ⅰ 多文化共生の意識づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ 施策の基本方向：地域社会に対する意識啓発の推進・ 施策の基本方向：人権意識の高揚 <p>行動目標Ⅱ 誰もが参加できる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ 施策の基本方向：地域社会への参加促進 <p>行動目標Ⅲ 外国人県民も暮らしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・ 施策の基本方向：コミュニケーション支援の充実・ 施策の基本方向：生活支援の充実

このうち、行動目標Ⅱ施策の基本方向iii「地域社会への参加促進」では、「外国人県民自身も地域社会の対等な構成員であるとの認識のもと、その能力を発揮して様々な活動に主体的に参加し、ともに地域づくりやまちづくり、災害時に地域社会の一員としての活動などを担うことができるよう、地域の活動への参加の促進に努め」としている。

この点について、平成22年度に行った有識者による中間評価では、「地域活動を行ってきた外国人グループの中には、景気後退により、中心人物が帰国してしまい、活動を継続することが難しくなってきたグループもあるので、組織同士の情報交換を促進したり、ノウハウを紹介するなどのサポートを行う必要がある」という課題が示され、今後の基本的方向を「先導的に実施した事業の成果を広めるなど、参画に向けた環境づくりを行うべきである。また、日本人県民、外国人県民を問わず、多文化共生を推進している団体、個人のネットワークを構築できるよう取り組むべきである」としている。

2. 目的

国籍や民族などのちがいかかわらずすべての県民が安心して暮らせることはもとより、そ

の能力を十分発揮して活躍することができ、さらにその多様な価値観を地域の活力として生かすことができる多文化共生社会づくりを進めることは極めて重要な課題であり、その推進には、日本人県民と外国人県民の相互理解や外国人県民の社会活動への参画が不可欠である。

本業務は、平成22年度に実施した愛知県多文化共生コミュニティ状況等実態調査の結果から、外国人県民にとって、日本語及び日本の法制度や慣習の理解、各種相談、日本人県民との交流の窓口や他の外国人県民との交流、心理的安定、自国のアイデンティティの保持といった様々な機能を果たしている外国人自助組織に着目し、その活動を促進する。加えて、県民への広報や活動紹介イベント等を実施することで、外国人自助組織を支点とした外国人県民による相互扶助と日本人県民とのさらなる交流を促進し、誰もが暮らしやすいコミュニティの実現に資する。

3. 対象

本事業では、主に県内で活動する外国人自助組織（以下「自助組織」とする）を対象とする。外国人県民を主な構成員としていること、在住外国人同士の相互扶助や日本人との多文化共生をその目的にしていることを前提に、事業実施時に把握できた約30の自助組織の中から、設立年や法人格の有無、活動地域、団体の規模などを考慮し、今回の支援により効果が見込めると考えられる10団体を選定し、各団体に本事業への参加協力を呼びかけた。そのうち、本事業の趣旨に賛同し参加協力を申し出た8団体を対象とした。

4. 期間・内容

本事業の実施期間は、平成23年8月24日から平成24年3月26日までである。

この間に、以下の4つを実施した。

(1) 自助組織の活動状況等の把握

対象となった8団体に母語を介して聴き取り調査を行い、団体の設立経緯や構成員、活動内容、課題や今後の展望等を把握しまとめた。調査結果は「Ⅲ. 聴き取り調査の結果」に、調査項目は巻末「資料1」を参照。

(2) 自助組織の活動推進プログラムの実施

聴き取り調査の結果を分析し、各自助組織に対して以下の項目に留意し、その活動を促進するための具体的な取り組みを提案した。

【取り組みのポイント】

- ・長期的効果
- ・自助組織内での継続可能性及び発展性
- ・自助組織の満足度
- ・モデル化及び他の事例への応用可能性

自助組織との話し合いを経て、各取り組みを実施した。詳細は「Ⅳ. 具体的な取り

組み」にまとめた。

(3) 合同イベントの開催

まず、県内で開催される「ワールド・コラボ・フェスタ 2011」にブース出展およびステージ参加を通じて、自助組織の活動紹介等を行った。そこでの経験を踏まえ、県内の定住外国人支援を実施している NPO/NGO、その他関係者及び一般県民を対象に、各自助組織の活動等を紹介するイベント「外国人コミュニティフェア 2012」を開催した。詳しくは、「V. 合同イベント」にまとめた。

(4) 自助組織紹介冊子の作成及び配布

聴き取り調査の結果に加え、団体設立の経緯や個別のエピソード、活動の様子を写した写真等を掲載した自助組織の活動を紹介する冊子「みんなでつくる多文化あいち」を作成した。冊子は日本人及び外国人県民の興味・関心を惹き、かつ理解しやすい内容となるよう関係機関と検討を重ねた。印刷物は、「外国人コミュニティフェア 2012」で参加者に配布するとともに、後日関係機関等に配布・設置した。作成過程については、「VI. 外国人コミュニティ紹介冊子」を参照されたい。

II. 支援対象団体について

1. 概要

本事業の支援対象となった8団体の概要を以下にまとめる。

団体名	構成員の主な 国籍・出身	主な活動 地域	設立年	主な活動分野
Asociación Peruana de Aichi Apoyo	ペルー	犬山市	2007年	—
ILLARIY DEL PERU	ペルー	豊橋市	2008年	文化・歴史紹介
華豊の友	中国, 日本	豊田市	2004年	語学・文化紹介
Centro Educational Happy Family	ブラジル	豊橋市	2001年	教育・生活相談
多文化のまちづくり	南米, 日本	犬山市・小牧市	2004年	教育・文化紹介
名古屋アフリカ移住者センター	ウガンダ	名古屋市	2005年	生活支援・文化紹介
保見ヶ丘ブラジル人協会	ブラジル, 日本	豊田市	2009年	語学・文化紹介
United Filipino Community Higashiura	フィリピン	東浦町	2009年	生活相談・文化紹介

2. 団体設立経緯と現在の状況

① Asociación Peruana de Aichi Apoyo (APEAA) [アペアー]

【代表】 Jose Arturo Medhina ; ホセ・アルトゥロ・メディナ (ペルー)

【構成員】 ボランティア多数 (活動に応じて協力者を募る)

Asociación Peruana de Aichi Apoyo (以下、「APEAA」とする。) 設立のきっかけは、2007年8月15日にペルー南部のピスコで起きた大地震にある。震災により、ピスコの街は大きな被害を受けた。被災者となった家族や親戚、友人、そしてペルーの人々を助けるために、彼らは力を合わせる事となった。その後、2008年に地域の様々なイベントに参加したことで、より多くの在日ペルー人が集まった。自国の文化や料理などを日本人に紹介することで、地域社会に馴染んで行こうとした。その後の経済不況等もあり、非常に難しい中でのスタートであったが、だれもが平和に暮らせるようにと活動を続けていった。

しかし、その後国内の経済状況は悪化の一途を辿り、とりわけ非正規雇用の多い在日外国人の労働環境は厳しかった。そうした中、APEAAの活動は一時休止を余儀なくされた。本事業開始時、APEAAは団体活動の再開時期を検討しているところであった。

② ILLARIY DEL PERU [イヤリー・デル・ペルー]

【代表】 メンバー全員

【構成員】 ボランティア20名程度 (活動に応じて協力者を募る)

現在の団体設立以前は、別の団体があり、多くの在日ペルー人の子どもたちが地域のイ

ベント等に招かれ民族衣装を着て踊っていたが、踊りのレベル等に対する期待や考え方の不一致等により、活動をそれぞれに行うようになった。その後、同じ想いを持った7家族と子ども8人で新たに ILLARIY DEL PERU を設立した。「ILLARIY」とは、ペルーの伝統民族が使う言語の一つであるケチュア語で「朝日」を意味する (ILLARIY DEL PERU =ペルーの朝日)。

メンバーである子どもたちは、オムツをしているところから踊りを始める。子どもたちの親を含め、大人たちが一生懸命に子どもたちの踊りを指導している。そうした活動を通じて、日本生まれ日本育ちの子どもたちの、ペルー人としてのアイデンティティ形成を願いつつ、ペルーの音楽や文化を日本社会に伝えることを目的としている。これまでは、地域や他団体が主催するイベント等に招かれて踊りを披露するなどしてきた。団体主催のイベント等の実施経験はない。

③ 華豊の友 [かほうのとも]

【代 表】任 利民 ; にん・りみん (中国)

【構成員】役員6名、ボランティア約50名

【URL】http://www.aste-toyota.jp/kaho/kaho_j.html

華豊の友は、自分たちの子どもに母国の言葉を忘れてほしくないという中国語教室を開催するところから始まった。活動を続けるうちに、日中両国友好関係のため、日本人にもっと中国の事を理解してほしいと思うようになり、また、在日中国人の親たちに困り事などを相談できる場があればと思ったことがきっかけとなり、団体を設立することとなった。中華人民共和国の「華」と、活動地域である豊田市の「豊」をとって、華豊の友と名付けた。

日頃は、日中文化交流の架け橋として、地域住民に交流の場を提供することを目的に、スポーツや料理などの交流イベントの企画実施、(公財)豊田市国際交流協会主催「中国デー」や名古屋春節祭への参加協力、中国語・日本語教室の開催、海外技術研修生対象防災教育の運営サポートなどを行なっている。

④ Centro Educacional Happy Family

【セントロ・エデュカシオナウ・ハッピー・ファミリー】

【代 表】Kawano Michelle Sayuri ; カワノ・ミシェリ・サユリ (ブラジル)

【構成員】役員3名、スタッフ・ボランティア9名

Centro Educacional Happy Family (以下、「Happy Family」とする。)は、仕事が忙しく子育てに十分な時間が割けない保護者にかわり、子どもたちのケアをする必要性を感じた者たちの活動から始まった。未就学児の託児所として、また就学児童の学童保育として、月曜日から土曜日まで、施設内で教育活動を行なっている。団体スタッフがブラジル人中心に構成されているにもかかわらず Happy Family という英語名であること理由は、預かっている子どもたちの国籍がブラジル、中国、フィリピンなど多国籍であることと、「い

くつか候補にあがったものから子どもたちが選んでくれた」からだという。

⑤ 多文化のまちづくり [たぶんかのまちづくり]

【代 表】 三上憲一；みかみ・けんいち（日本）

【構成員】 役員3名、ボランティア多数（活動に応じて協力者を募る）

【URL】 <http://www.tabunka.co.jp>

多文化のまちづくりの前身である「ラテン子どもの会」は、2004年から日本社会の構造や知識に不案内な在住外国人を親にもつ子どもたちが、将来の日本社会において自立した生活を送れるように日本社会の知識と教養を学ぶこと、また会員相互の交流と親睦を図ることを目的として始まった。設立当初は、若い世代の教育問題の解決や各種情報提供のためのセミナー、また母語教育（ブラジル人向けのポルトガル語）を中心に活動していた。しかし、教育関連セミナーを重ねていくにつれ、参加者にはラテン人（ブラジル人やペルー人）以外の参加者も増えはじめ、地域の外国人の課題は国籍を問わないとを感じるようになった。そこで2011年9月、「多文化のまちづくり」に組織を改め、若い世代の教育問題を中心に、それを支える外国人の親たち、また若い世代の外国人が活躍できる地域づくりを目指すこととなった。「多文化」という言葉は「外国人の文化」として捉えられがちだが、「日本人＋外国人＝市民」が暮らすこの地域では、日本人の文化も多文化の1つであり、どの文化や考え方が一番いいのかを決めそれに統合するのではなく、地域に暮らす全員の文化や考え方を認め合い尊重し合うことが「多文化」の基本であると考えているという。

現在は、外国人コミュニティ支援（外国人のための防災・防犯セミナー、生活に必要な日本語教室、外国人コミュニティリーダーの養成講座等）や教育関連事業（外国人の若者やその両親向けの教育進学セミナー、外国人の若者と身近な先輩のキヅナプロジェクト等）、多文化紹介事業（国際交流イベントの企画運営、多文化紹介ブースの出展等）を行なっている。

⑥ 名古屋アフリカ移住者センター [なごやアフリカいじゅうしゃセンター]

【代 表】 Onishi Hamiat；大西ハミアット（ウガンダ）

【構成員】 役員1名

名古屋アフリカ移住者センターは、愛知県に住むアフリカ移住者が抱える様々な悩みや課題の解決を支援するために設立された。同センターでは、アフリカ移民が公正な権利と生活環境を得られるよう、他の移民支援グループや関係諸機関、専門家等と緊密な連携をもって活動している。

また、生活支援を行う一方で、フェアトレード商品の販売やアフリカの文化・料理等の紹介を通じて、日本人・日本社会へのアフリカに対する理解を促している。

⑦ 保見ヶ丘ブラジル人協会 [ほみがおかブラジルじんきょうかい]

【代 表】 Sérgio Kazuto Matsuda ; 松田セルジオ一人 (ブラジル)

【構成員】 役員 5 名、スタッフ 6 名

【URL】 <http://www.associacaobrasileirahomigaoka.blogspot.com/>

保見ヶ丘ブラジル人協会は、2008年に起きた経済危機（いわゆる、リーマン・ショック）の時に仕事を失った人々や地域に対して、何か手助けしなければと立ち上がった住民により設立された。設立当初のメンバー構成から、団体名に「保見ヶ丘」「ブラジル人」という言葉が入っているが、現在は保見ヶ丘以外の地域に住むメンバーもおり、また日本人住民が全体の1/3を占めている。

現在、活動目標に「コミュニティ間の融合」を掲げ、サンバや日本語学習、バス旅行、国際フェスタの開催などを通じて日本人住民とブラジル人住民の交流をはかっている。

⑧ United Filipino Community in Higashiura

[ユナイテッド・フィリピン・コミュニティ・イン・ひがしうら]

【代 表】 Marian chiba ; 千葉・マリアン (フィリピン)

【構成員】 役員 12 名、ボランティア約 40 名

United Filipino Community in Higashiura (以下、「UFCH」とする。)は、県内で長く活動しているフィリピン人 NGO「フィリピン人移住者センター (FMC)」のサポートを受けて2009年に設立した。とりわけ、日本語のわからないフィリピン人を支援するために、しっかりとした組織づくりが求められていたのだ。

活動の目的は、日本人にフィリピン人のユニークな文化や特徴を紹介し、フィリピンおよびフィリピン人への理解を促すこと、そして、日本に住んでいるフィリピン人が直面している問題（仕事、保険、言語の壁、家庭内暴力、公的保障に関する情報入手等）について手助けすることである。そのため、クリスマスパーティーやバーベキューなどの開催、そこでのフィリピンの文化やダンスの紹介、各種生活相談、大人向けの日本語教育などを行なっている。

Ⅲ. 聴き取り調査の結果

本事業では、対象となった8団体に基本的な活動状況（組織体制、活動内容、課題や今後の展望等）について、聴き取り調査を行った。聴き取りは、母語等を介して行い、各団体の状況を適切に把握するよう努めた。

1. 団体概要

ここでは、各団体の組織体制、会員制度や法人格、情報発信ツールの有無等、団体概要について紹介する。

① APEAA

組織体制	理事：なし 有給スタッフ：なし（以前はあり） ※様々な国籍の人が参加	事務局：なし ボランティア：多数
規約の有無	あり	
団体パンフレットの有無	なし	
法人格の有無	なし	
会員制度の有無	あり	
団体HPの有無	なし	

② ILLARIY DEL PERU

組織体制	理事：なし 有給スタッフ：なし ※参加者全員がペルー人。年齢は多様。	事務局：なし ボランティア：参加者全員
規約の有無	なし	
団体パンフレットの有無	あり	
法人格の有無	なし	
会員制度の有無	なし	
団体HPの有無	Facebook ページのみあり	

③ 華豊の友

組織体制	理事：なし 事務局：代表1人 副代表2人 会計1人 出納1人 幹事1人 有給スタッフ：なし ※参加者のほとんどが会社員。一部は日本人の配偶者。 国籍は中国80%と日本20%。年齢層は10代～70代。男女比率は4:6	ボランティア：51名
------	---	------------

団体パンフレットの有無	なし
法人格の有無	なし
会員制度の有無	なし
団体 HP の有無	なし

⑦ 保見ヶ丘ブラジル人協会

組織体制	理事：なし 有給スタッフ：なし ※12人のメンバーのうち、8人がブラジル人、4人が日本人。代表（ブラジル人）、副代表（ブラジル人）、財務（ブラジル人）、秘書（日本人とブラジル人）と指導員／カウンセラー。	事務局：12人 ボランティア：参加者全員
規約の有無	なし	
団体パンフレットの有無	なし	
法人格の有無	なし	
会員制度の有無	なし	
団体 HP の有無	あり	

⑧ UFCH

組織体制	理事：なし 有給スタッフ：なし ※活動の主な参加者は東浦地域のフィリピン人住民。大多数のメンバーが女性で、多くが日本の男性たちと結婚している。そのため、メンバーの集会に日本人の夫が参加する時がある。これまでのところ、地元日本語教師ボランティア以外には、グループの活動に参加する日本人はいない。組織は合計50人で全員フィリピン人。12人のメンバーは役職があるボランティアで、代表、副代表、書記、会計係、平和関係士官、教育、スポーツ、言語担当のような様々なポジションに就いている。	事務局：なし ボランティア：50人
規約の有無	なし	
団体パンフレットの有無	なし	
法人格の有無	なし	
会員制度の有無	なし	
団体 HP の有無	なし	

<まとめ>

- ・ 8 団体のうち、有給スタッフを持つ団体は 1 団体のみ。
- ・ ほとんどの団体では、参加者は仕事の傍らボランティアとして活動を行っている。
- ・ 法人格を有する団体はなく、規約を持っているのは 8 団体中 3 団体、会員制度があるのは 1 団体のみ。
- ・ 情報発信について、団体パンフレットを有している団体は 1 団体、ホームページを有している団体は 3 団体（facebook ページを含めると 5 団体）。そのうち、日本語のホームページを持つ団体は 2 団体。

<課題>

- ・ 会員制度のある団体は 1 割、活動資金の一つとなる助成金等の申請時に必要な「規約」を持っている団体は 4 割以下と少なく、団体基盤の整備が今後の活動の継続・発展の一助になることが考えられる。
- ・ 団体パンフレットなど広報物を有している団体は 1 割、ホームページを有している団体は 4 割以下と少なく、外部への広報に課題がみられる。中でも、日本人に母国文化を紹介することを目的のひとつにしているにもかかわらず、日本語を媒介にした広報ツールを持たない団体が多く、今後の日本人への団体活動の周知方法に工夫が必要である。

2. 活動実態

活動を行うにあたっての課題、今後実施したい活動など、各団体の活動の様子について、下記にまとめる。

① APEAA

活動の宣伝・広報の方法	周りの友人を口コミで誘っている
日本人ボランティアの有無	なし
活動を行うにあたっての課題	今までは自分一人で抱えてきた問題が多かった。自分の代わりに次に続く世代を早めに作りたい。
満足度・重視したい活動	現在は活動休止中だが、過去の活動に関しては満足している。自分が代表をしていたときに 36 のイベントを行った。
今後実施したいと考えている活動	今まで作っていたコミュニティ雑誌づくりを続けたい。その他、ラテンコミュニティの活動を紹介するイベントや食品販売などを行いたい。
財政状況	イベント等で得た事業収入が団体の活動資金になるが、現在はほとんどない。

② ILLARIY DEL PERU

活動の宣伝・広報の方法	Facebook やパンフレット、雑誌 Mercado Latino (メルカド・ラティーノ)、Mujer Latina (ムジェル・ラティーナ)、Escape (エスカペ)に情報を掲載している。今後は、広報のための費用をこれ以上負担することは難しい。
日本人ボランティアの有無	なし
活動を行うにあたっての課題	団体の活動資金が悩み。お母さんたちはイベントに参加するとき、時間がない中を準備のためにアリののように夜遅くまで働いている。手伝ってくれるボランティアを呼びかけているが、なかなか集まらない。
満足度・重視したい活動	現在の活動には満足しているが、もっと文化紹介を広げていきたい。現在は週2回踊りの練習をしている。子どもたちがもっとやる気を出せるように、踊りの先生をつけてあげたいが、資金がないため、現状では難しい。
今後実施したいと考えている活動	イベントのゲストに呼んでいただくことがあるので、ぜひ見に来てほしい。
財政状況	毎月の会費制。ほとんどの親たちが持ち出しで踊りの練習場の家賃を払っている。時々、イベントなどで販売した食べ物の売り上げを団体運営資金に充てているが、それでも赤字になってしまう。ペルーの伝統を正しく伝えるため、ダンスの衣装をペルーで購入して送ってもらっているが、費用がかかっている。

③ 華豊の友

活動の宣伝・広報の方法	特に宣伝はしていない。たまに、ホームページを見て、興味がある人が訪ねてくることがある。コンサートの開催など活動を通して、知名度が自然と上がっている。
日本人ボランティアの有無	あり。参加者の20%が日本人。
活動を行うにあたっての課題	日本人にもっと中国人を理解してほしい。日本に住んでいる中国人の多くは真面目に一所懸命仕事をしているが、マスコミの報道等を通じて、中国のイメージが悪くなっているように思う。
満足度・重視したい活動	60%は満足している。もっと目的がはっきりしている活動をしたい。
今後実施したいと考えている活動	①中国と連携し、中国に植樹をしたい。毎年、中国から日本に黄砂が飛んでくるたびに、恥ずかしく感じている。

	②日本に住んでいる中国人や日本人の子どもたちが中国の学校と交流し、お互いにホームステイできたらよい。
財政状況	収入は、事業収入（ブースでの小物売りやコンサート、雑技団など入場券の収入）と助成金。支出は人件費など。

④ Happy Family

活動の宣伝・広報の方法	広報は積極的には行っていない。
日本人ボランティアの有無	日本語の先生が運営に協力している。
活動を行うにあたっての課題	①親の子育てへの関心が薄いこと。 ②団体の財政状況。活動は常に赤字。
満足度・重視したい活動	満足していない。子育てへの親の関心が低く、様々な活動への協力体制が築けていない。
今後実施したいと考えている活動	ブラジル人の子どもを対象としたポルトガル語のクラスやカポエイラのクラスを開催したい。
財政状況	親の払う授業料で家賃、スタッフの人件費、自動車の保険・メンテナンス・ガソリン、食糧、水、電気、ガスなどの費用をカバー。12人のうち6人は有給スタッフで、残りはボランティア。

⑤ 多文化のまちづくり

活動の宣伝・広報の方法	特に行っていない。
日本人ボランティアの有無	代表者が日本人。
活動を行うにあたっての課題	・資金不足 ・活動場所が借りられない（地域の人たちとのミーティングは夜が遅いため公共施設が開いていない） ・市民の多文化共生への理解度が高くないため活動しづらい
満足度・重視したい活動	現在の活動に満足はしていない。会を続けたい気持ちはあるが、他に仕事もあるので活動時間が限られてしまう。
今後実施したいと考えている活動	教育進学セミナーの開催や外国人向けサポート校の開校を目指している。「多文化のまちづくり」の活動拠点を開放し、居場所を提供することで、外国人の非行防止と社会参加や情報交換の拠点を地域に作りたい。
財政状況	イベントなどでの事業収入と寄付が収入源だが、十分な活動資金は得

	られていない。スタッフの自己負担が多い。
--	----------------------

⑥ 名古屋アフリカ移住者センター

活動の宣伝・広報の方法	特に行っていない。
日本人ボランティアの有無	以前は日本人主婦2人がボランティアとして手伝ってくれていたが、現在は日本人ボランティアはいない。必要に応じて、弁護士さんがサポートしてくれている。
活動を行うにあたっての課題	スタッフ等の人材不足と事務所や活動のための資金不足。
満足度・重視したい活動	人手不足であるため、満足はしていない
今後実施したいと考えている活動	具体的には考えていない。
財政状況	必要に応じてアフリカの人に寄付をお願いしている。ほとんど収入はなし。

⑦ 保見ヶ丘ブラジル人協会

活動の宣伝・広報の方法	チラシはポルトガル語と日本語の二つの言語で作っている。
日本人ボランティアの有無	4人の日本人スタッフがいる。一人は秘書で残りはカウンセラー。ブラジル人が日本人と一緒に活動に参加し、自分たちも日本社会の一員であることに興味を持つことが融合ではないかと思っている。 私たちは、さまざまな問題を抱えて訪ねてくる人々に、日本人の助けを借りるようアドバイスしている。何人かのメンバーが団体を離れたり、辞めたことで、団体のマネジメント方法が変わったが、今は2人の日本人がサンバグループを支援してくれている。 現在は8人のブラジル人と4人の日本人でマネジメントしている。マネジメントに日本人を含むことはあらかじめ決めていた。それは、ブラジル人だけで物事を行うことが難しく、すべてにおいて日本の支援に助けられていたから。私たちは常に日本のNPO団体、(公財)豊田市国際交流協会などの経験豊かな方々から、助成金の申請方法やアドバイスを頂いている。
活動を行うにあたっての課題	みんな仕事が忙しく、十分な時間がなくマンパワーが常に足りていないこと。 初めは日本語コースの受講に興味を持ち、たくさんの方が来るが、時間をかけて通い、コースを修了するまで興味関心を維持させるのが難

	しいこと。
満足度・重視したい活動	満足しているが、アイデアがたくさんあるため、もっと財政状況が良かったら、メンバーやボランティアを集め、協力して新しいプロジェクトや活動を行いたい。
今後実施したいと考えている活動	ブラジル人はとても創造的であるため、文化を広めるために映画鑑賞・クラフト・ダンスの講座を行いたい。一般に様々なコースが開催できれば、収入も期待でき、組織は単発のイベントでの収入や助成金・寄付金だけに依存する必要がなくなる。さらにコースや活動を増やし、ブラジルと日本の文化が混合することで、未だ存在する障壁を取り除き人々に利潤をもたらすことができると考えている。
財政状況	寄付、助成金、サンバやブース出展の参加費

⑧ UFCH

活動の宣伝・広報の方法	グループ活動が閉鎖的なため、日本人を対象にした広報活動は行っていない。どのように活動を公開するべきか、十分なノウハウを持っていない。
日本人ボランティアの有無	なし
活動を行うにあたっての課題	メンバーの仕事が忙しく、集まる時間がなくミーティングに参加する人が少ない。多くのメンバーが直面している重大問題は日本語。税金、健康保険、通院、子ども手当、経済援助などに対して、公共のオフィスで日本語でコミュニケーションを取ることが難しく、日本語のわかるスタッフが通訳をしなくてはいけない。
満足度・重視したい活動	もっと多くの活動を行いたい、資金とメンバーの不足により、思うようにできていない
今後実施したいと考えている活動	一番はフィリピン人の日常問題の解決を助けること。仕事、日本語、健康保険、助成金、補助金、差別、DV、離婚、心理的カウンセリングなどの手助けをしたい。また、日本語コースとスポーツグループのような基本的な活動をもっと良くしたい。ほかに日本人にフィリピンの特徴や文化を広く知ってもらいたい。
財政状況	寄付のみで他にはなし。12人のスタッフが2年前に組織に提供した資金はすでに残っていない。祝祭参加のような特殊な活動のために出費があるときは、参加するメンバーが寄付する。スタッフは、もし常時資金があると、お金がどのように使われるかについて、メンバーが気にするだろうと考えているため、資金は特定の活動があるたびにメンバーから集めるほうがよいのではないかと考えている。

<まとめ>

- ・ 広報活動を積極的に行っている団体は2団体のみ。
- ・ 8団体のうち、半分は日常的に日本人が活動に参加しており、半分は参加していない。
- ・ 団体の課題として7団体が資金不足をあげ、4団体が人材不足と答えた。
- ・ ほとんどの団体が寄付金（持ち出しを含む）とイベント等での事業収入を財源にしている。2団体のみ、助成金も財源のひとつになっている。

<課題>

- ・ 約9割の団体が、活動を継続するうえでの困りごととして資金不足をあげている。身内からの寄付金やメンバーの持ち出し、イベントでのわずかな事業収入を財源としているが、メンバーの経済状況に左右される部分が強く、安定的な財源にはなっていない。会費や助成金など、定期的に入ってくる財源を確保することが、活動を継続的に行う一助になると考える。
- ・ 半数の団体が人材不足を課題と答えたが、一方で積極的な広報を行っているのは2団体のみだった。まずは、ターゲットを明確に絞り、ターゲットに向けた広報活動を積極的に行うことで、活動に関心を持つ人材に団体との接点をつくることが重要である。

3. 日本人との関わり

各団体の日本人への働きかけは下記の通りである。

① APEAA

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	なし
日本人が主催するイベントへの参加	以前に愛知県国際交流協会とともに事業を実施した
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	なし
日本人への広報	以前は、「カミネモス」というマガジンを作っていたため、それを使って宣伝していた。また、周りの友達を直接誘っている。

② ILLARIY DEL PERU

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	ペルー人が踊るダンスと、ペルー人ではない人たちが踊るダンスは異なるが、人々はペルーをよく知らないため、その違いに気付かない。伝統的な踊りには、それぞれのメッセージがあり、私たちはそれを日本の皆さまに伝えていきたいと思っている。
------------------------	---

日本人が主催するイベントへの参加	豊橋和太鼓フェスタへの出演など
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	なし
日本人への広報	日本人向けのパンフレットあり

③ 華豊の友

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	コンサートや雑技団など
日本人が主催するイベントへの参加	財団法人あすてに登録している日本の団体さんと一緒に国際コンサート（10カ国）などを開催
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	あすて盆踊り大会へ参加
日本人への広報	ホームページはあるが、特に宣伝は行っていない

④ Happy Family

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	日本人とともにハロウィンパーティーを開催
日本人が主催するイベントへの参加	県や市から送られてくるチラシに載っているイベントに参加したことがある
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	子どもたちが地域の農業の手伝いや公園掃除、イベントに参加する機会を作っている
日本人への広報	今より多くの従業員を雇用する予定がないため、特に広報は行っていない

⑤ 多文化のまちづくり

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	特に日本人向け、外国人向けとは区別していない。リトルワールドで開催したイベントの客はほとんどが日本人だった。
日本人が主催するイベントへの参加	なし
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	なし
日本人への広報	セミナーやイベントのときにチラシを配布

⑥ 名古屋アフリカ移住者センター

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	イベントやお祭りなどでアフリカ（文化、料理、ダンス）を紹介している
日本人が主催するイベントへの参加	定期的に決まった活動はないが、多文化共生を行う団体や外国人支援を行う団体と共に活動することがある
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	なし
日本人への広報	なし

⑦ 保見ヶ丘ブラジル人協会

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	PPOJET（ブラジル人自助組織）と協力して国際交通教育事業を開催したり、サンバや楽器教室を開催したりしている。他に防災訓練・月例パトロール・保見祭りなどに参加している。
日本人が主催するイベントへの参加	「保見ヶ丘国際交流センター」の活動やイベントに一員として参加している。今年は「ほみにおいでん祭り」「国際フェスタ」「クリスマスパーティー」への参加や一緒に小旅行をした。
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	あり。防災訓練・月例パトロール・保見祭りなどに参加。
日本人への広報	チラシを作る場合はポルトガル語と日本語の二つの言語で作っている。

⑧ UFCH

日本人を対象とした活動、活動への日本人の参加	グループで唯一の日本人向けの活動は、地域のお祭りでの成人メンバーと子どもたちがフィリピンの伝統的なダンスの披露。他の活動はフィリピン人だけで行っている。
日本人が主催するイベントへの参加	地元の日本のグループと共同で行なっている活動はない。パーティーのような特別な機会があるときに、日本語教師の日本の友人たちを招待する。
日本人の住民組織（町内会など）とのかかわり	地域のお祭りへの参加。
日本人への広報	グループ活動が閉鎖的なため、日本人を対象にした広報はない。

<まとめ>

- ・全団体が、日本人とともに活動を行ったり、日本人が主催するイベントに参加したりしたことがある。
- ・8団体中5団体が、日本人向けに広報を行っているもしくは行ったことがある。

4. ネットワークづくり

他団体や母国とのつながりについて、下記にまとめる。

① APEAA

他の外国人自助組織 とのかかわり	浜松でイベントを主催した時に、HAPA という団体やその他の団体が参加してくれた。今は他の外国人自助組織とのかかわりはない。
本国(政府、支援団体) とのかかわり	写真展を犬山でやった時に、ペルーの領事館の協力を得た。

② ILLARIY DEL PERU

他の外国人自助組織 とのかかわり	ブラジルの団体さんから声をかけていただくことがある。
本国(政府、支援団体) とのかかわり	前領事との交流はあったが、現在は大使館や領事館の協力はなく誰とも連携はない。

③ 華豊の友

他の外国人自助組織 とのかかわり	あすでの登録グループ「BPS」、「スプラッシュ S」と共同で、「国際スポーツ交流会」を開催した。
本国(政府、支援団体) とのかかわり	中国総領事館主催の春節イベントに参加した。華豊の友が主催する「中国雑技の夕べ」は中国領事館の後援をもらっている。

④ Happy Family

他の外国人自助組織 とのかかわり	子どもの問題を持つ家族への助言をブラジル人学校「NOVA ERA」と行っている。
本国(政府、支援団体) とのかかわり	なし

⑤ 多文化のまちづくり

他の外国人自助組織 とのかかわり	「APEAA」、「NPO 法人ブラジル友の会」、日系留学生と交流や共同事業を行っている
本国(政府、支援団体) とのかかわり	領事館、大使館とのかかわりがある。ブラジル領事館からは子ども向けのポルトガル語の本などの提供があった。ペルー領事館からは必要に応じて国紹介の資料などの提供がある。

⑥ 名古屋アフリカ移住者センター

他の外国人自助組織 とのかかわり	なし
本国(政府、支援団体) とのかかわり	教会や支援団体とのかかわりがある

⑦ 保見ヶ丘ブラジル人協会

他の外国人自助組織 とのかかわり	子どものための交通教育のためにブラジル人自助組織と連携して 事業を行った
本国(政府、支援団体) とのかかわり	なし

⑧ UFCH

他の外国人自助組織 とのかかわり	フィリピン人移住者センター (FMC) から組織強化のためのサポ ートや情報提供を受けている。
本国(政府、支援団体) とのかかわり	なし

<まとめ>

- ・ 8 団体中 7 団体が他の外国人自助組織とかかわりがある。
- ・ 8 団体中 5 団体が、本国の政府や支援団体と何らかのかかわりがある／あった。